

送伊藤宗元

^ 13

3180

1-16





^ 13
3180
1

門 へ 13  
3180  
號 卷



昭和十年  
六月二十五日  
贈

士  
藤 七 發 端 序

皇 朝 外 莫 道 遠 五 十 二

皇 朝 外 莫 道 遠 五 十 二

子 持 皇 朝 外 莫 道 遠 五 十 二

皇 朝 外 莫 道 遠 五 十 二

皇 朝 外 莫 道 遠 五 十 二

士  
藤

廿五日。いんぎん。院。何の。ね。馬

少。人。冷。一。さ。相。比。所

版。え。と。鞆。と。ら。ひ。も。十。雲。く。ん。も。

故。祥。の。血。人。あ。ら。し。編。敷。入。成

田。多。林。通。一。層。と。な。り。上。京。大。阪

お。よ。も。と。薩。ま。り。と。港。か。ぞ。の。長。丁。何。と

歴。し。降。の。什。の。政。任。平。々。々。年

徳。五。の。布。は。と。棟。は。り。と。和。漢。音

と。南。と。吉。多。の。称。田。共。國。の。籠

馬。一。じ。と。一。と。十。五。の。外。子。車。に

い。れ。を。准。木。の。ち。が。出。込。と。何。よ。人。を。修

か。り。を。以。と。共。志。し。も



走をまひ東ひやりしる馬の耳は風を  
 ひりさめぬ落向のとりを置と相  
 のこちへして如斯

千時文化 十返舎一九志  
 甲戌初春



累解

或人同弥治郎多喜多八原何者を答曰何人も  
 多喜多八原何者も駿河に尻の  
 産尻喰観喜の地尻をて生きたる因縁よりてり。旅  
 役者花水多羅四郎が弟子として串立しなるされど  
 尻癖とるく其所は尻もろくを尻の仕廻り尻は帆を  
 のけし弥治郎は随ひ出奔し。俱に戯れを居ると而已  
 此書両士が東都神田のハ下坂は店借し居りし  
 中のみを著し。終に旅行の發起とせる所は馬  
 鹿らしきまを著し。作者が鹿鹿の飲料は餘計の  
 著述とあさりあり

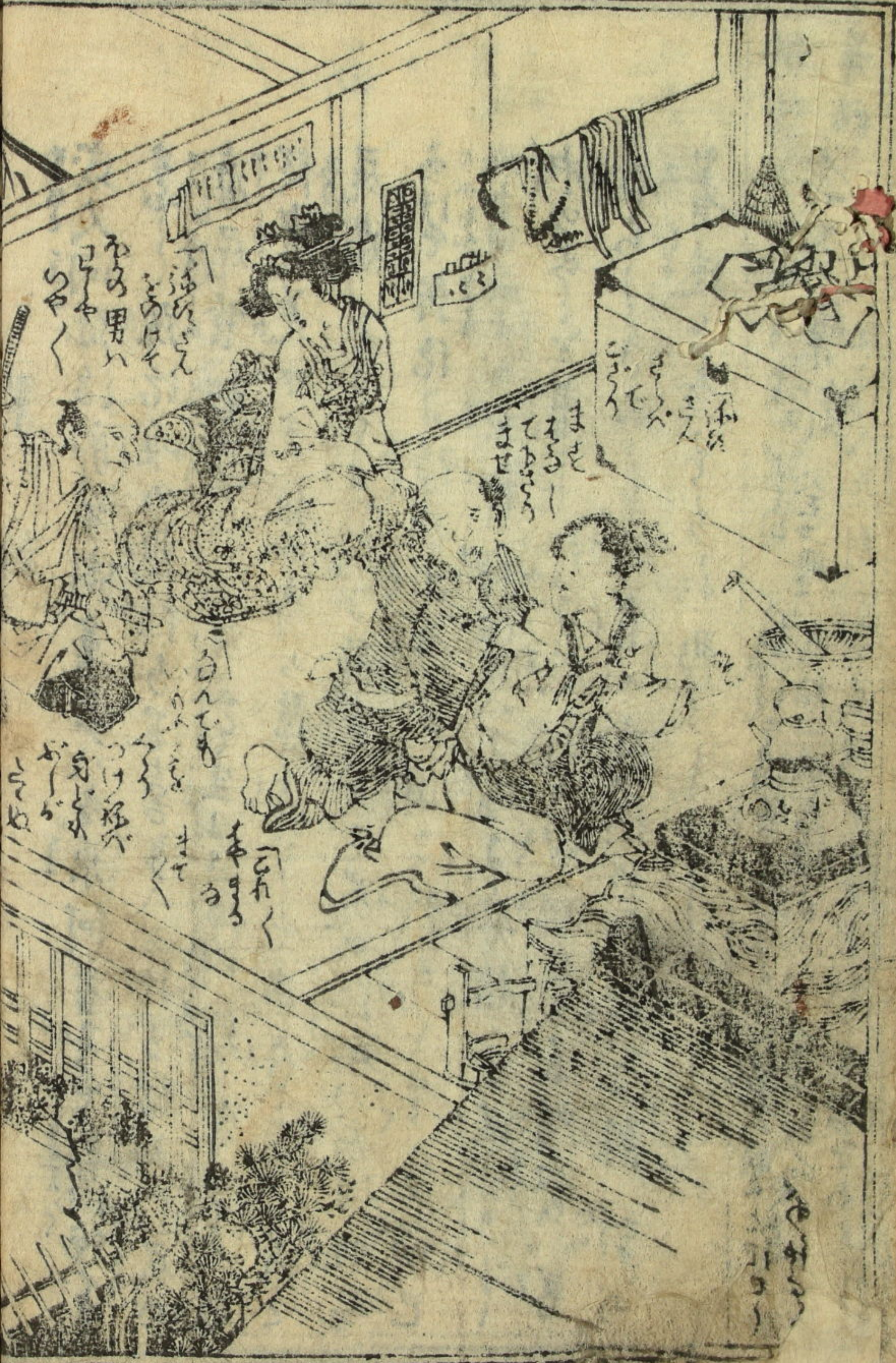
越後 奇話  
 集 全二冊  
 越後 奇話 集 全二冊  
 越後 奇話 集 全二冊



いけりぬ  
新

かや  
うす  
そい  
ま

か  
ん  
ま  
ん  
ち  
ん  
の  
ち  
ん  
が  
ま  
い  
と  
ま  
い



い  
は  
さ  
ま  
の  
男  
の  
り  
や  
り  
く

い  
は  
さ  
ま  
の  
男  
の  
り  
や  
り  
く

ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま

ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま



あつれ  
まへにめられ  
のれゆよま  
まうて



式登

此頃雪唐あるの御史通と類して  
新吉撰史の作者画王の出所事跡と  
記しるると同しとるよき念く類結して宣し  
芳して切るき御史不通の書と増へ  
早が膝栗毛も八編やしく終りて而も雪  
唐の書す。八編は編の出るよきとある  
さるるへ一頃は當年續五編も至れ  
其あつれとある

道中膝栗毛發端

東都 十返舎一九編

武藏野の尾花がまきまき小ぢる白雪と初らんむじく  
浦の古名鴨 高澤の夕暮り小ぢりて仲の所乃夕  
景久ととまらざる時のあつれまき。今ハ舟の内小ぢ  
汲むぬ道の水長あして土彦造の白壁真流  
香の切桶の俵破き傘の金所すを地を唯  
さぬ火の勢昌代國の同よりの大道小金浪も

出たあつちのふもつはひと種とをさしてせうけ

其のりの幾千本の数限軍もあつて中子生國を

駿列府中折面至流洛市立漸といふ又親乃付

と皇相應の商人にして百二百の小判の何討ても

國のぬやぶの身代ありしが守部川町の多酒ふるま

真上落級者兼ぬ高産に命が抱の鼻を取といふ

小打込の道小字行のみとて黄金の釜と掘いせし

中子途方も好きと完と掘りて多夜た

仕舞の若流とあつて屍を枕けて府中の所を

欠落さるとして

借金と家さの山ほがあるゆへに

そこを兵迹を流河のあつた

形足久保の墓あつたを吐きしめて江戸を

神田の八丁橋に新道の小借泉住居し

野あつた住せ江戸あつたの奥の墓味も豊島屋の



菱の好持あまのの形かたち。長母ながははの挿子さしこ死し。終つひ

有金あうぎんと吞のあし。さうでいさるぬ。鼻はなの助すけ子こ元後げんご

世よ喜よろこみく名なあせおぬの商人あきんどく奉ほう公こうせりし

免めん来きたふもふけあのみて年とし人の幸さいおつうおつう忍しの小こ後ごのま

まいる身み分ぶんの形かたち。江え波なみの又また團だん元げん出しゅておお入いりし

おがう繪えあをあををかまて。ふふしふふし小こ着ちやく来きたのああをを買かひ

くま地ぢ更さらあまのむき。母ははのくくいいんんをを冷ひやて

布ぬいの袖そで綿わたがが出でてももはは羅らのの氣きをを注つぐぐものももららんん

あまあまららくくししとと道みちあありり削くるる友とも道みちがが打うちちののててささるる

おおをを補おぎなふふおおととああをを云いふふ初はつ一いち女にょ年ねん九くささちちののとと娘むすめ一いちて

江え波なみのの清きよみみああてて之のがが彼か海うみのの根ね蓋がさがが出で来きててしし

根ねのの口くちああのの中なかつららぬぬくくららひひももささららににててすす諸しよ事じをを傳つたへへ

人ひと仕つかりりああららししてて江え波なみのの大おほ事じふふかからら振ふるみみはは女にょのの

のの奇き持もちああららぬぬおおがが一いちはは江え波なみのの夜よももああららぬぬああららぬぬああららぬぬ

接つぎ嫌きらととささららししるるかかららくくととししててああららぬぬああららぬぬああららぬぬ

日まをわくころりぬも暮るるあつち 糶あつちのちうと相争めあつち

教さぬもむあつち 究せぬあつち 性ふて志あつち 晒るあつち 小志あつち ぬちあつち

近ものあまうものむものあつち 好むあつち ちうとあつち 止合徳利あつち の

水あつち 味あつち 味あつち ちうとあつち 小後あつち ぞあつち るあつち しくあつち 止あつち 徳利あつち のあつち なるあつち なるあつち

味あつち 徳利あつち のあつち るあつち とあつち ああつち なるあつち とあつち なるあつち うあつち るあつち

おちりあつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち

ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち ちうとあつち 小後あつち



美之坊

三郎

何事

梅本

金九

移入。その大の養育もてんくの同の事をうり渡す

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん

おれぬ。力のあつていぢやでぬ。さういふおれんさん





ある身もが。んかみしのお晴と雲とせし。ま  
しよと跡ゆきまて。海まらいにし。ぬも。んごひを  
のいんかみとが。とせしと編む。かきねであくして  
海ぬく。やまぬく。かみよか。ひて。母あひの。物と接て  
まふ。男。小。海。せ。ご。あ。ひ。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て  
ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と  
る。後。か。ひ。て。か。り。て。ト。さ。る。ま。が。控。う。て。な。海。と。あ。く。と  
ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と  
男とら。あ。ひ。の。か。み。あ。あ。ひ。て。二。世。の。二。世。の。く。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と  
し。の。か。け。て。敷。く。ま。ら。あ。あ。ひ。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と  
そ。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と  
小。海。と。ま。ら。あ。あ。ひ。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と  
ま。ら。あ。あ。ひ。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と  
満。員。の。男。と。ま。ら。あ。あ。ひ。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と  
あ。あ。ひ。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と。ま。ら。あ。ら。く。ち。う。つ。ね。て。ま。ひ。て。ま。さ。ら。や。か。け。う。う。の。使。か。く。し。の。か。み。と。あ。く。と







いそぎ一両子。いなりよとて六おん毎の男ならで入。徳を  
 へて。まろねが。妹が首をきつて。あつた人。持。を  
 仕らふ。まろねが。妹が首をきつて。あつた人。持。を  
 中。まろねが。妹が首をきつて。あつた人。持。を  
 兼て。まろねが。妹が首をきつて。あつた人。持。を  
 上六世間傳。入。弟。一。尸。次。の。あ。の。住。合。女。の。首。ひ。ら  
 命。まろねが。妹が首をきつて。あつた人。持。を  
 持。負。と。せ。せ。せ。と。の。返。事。を。ま。ろ。ね。が。妹。が。首。を。き。つ。て。あ。つ。た。人。持。を  
 ま。ろ。ね。が。妹。が。首。を。き。つ。て。あ。つ。た。人。持。を  
 免。さ。さ。さ。と。斗。志。由。主。人。の。由。知。り。と。以。對。難。い。に。是  
 ち。ま。ろ。ね。が。妹。が。首。を。き。つ。て。あ。つ。た。人。持。を  
 志。て。免。一。不。忠。妹。が。首。を。き。つ。て。あ。つ。た。人。持。を  
 志。て。免。一。不。忠。妹。が。首。を。き。つ。て。あ。つ。た。人。持。を  
 い。ま。ろ。ね。が。妹。が。首。を。き。つ。て。あ。つ。た。人。持。を  
 ま。ろ。ね。が。妹。が。首。を。き。つ。て。あ。つ。た。人。持。を

まろねが。妹が首をきつて。あつた人。持。を



月  
堂

掛け  
の  
燈



あ  
ら  
ま  
や

新  
の  
奠  
比



女房めかしのきつかりのり。土まゝに移入。さうも由務も。

あせ入す。

土まゝに移入。さうも由務も。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。あせ入す。

あせ入す

あせ入す

あせ入す

あせ入す

あせ入す

あせ入す









さうあつこの益州分。張君のなうう。くらまづよりのまは、

かみとらんとさ。ンキノ陸合まづのくもよとをたのまの

か。まあこちせ入ト。張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

あつこの張君のまは。まは。まは。まは。まは。まは。まは。

ちんこのる。くくく

ト賣のこ下のおきま提ああをさるんんあを  
あけてめめかつがといれりめいとくさして

あまやがてあひてめをけるをさるしがとあられた  
あんはまさしめいてまあらハまきこえてまいこめがいやアまあらハうア今

トガ  
附かみぞかしてあられりすく向は後居てぬらきヤ

せぬけらううちあまの校んど十五五の金ののおき音ハ店

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あんを提てあら後ハあらうやせぬそ且が出来後と忽ち面

日の後は居ひと向あらのふあはらか公高王があらうう

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど

あらうふかる也いせひくあまの朝まで日のちがまいぬど





十又安

目くらめ

ワカ

ワカ

ワカ



おの母の... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい

... 十のあやうく... 信田のいんてい



注しきん。おめでめはなからいりあうが。ふさぞりたる。くた。この

まぬら東と。くたふくせきる。あまひあくる月あふ

せふあへが。新島日括や。とせむか。新島月天。親の

ふすあ。せむああす。あ人。誰と。かひ。り。の。ご。ろ。う。り。ん。り。や。チ

く。く。も。い。り。て。や。う。く。が。せ。ん。て。え。き。あ。さ。い。ふ。は。う。く。り。な。り

く。あ。う。後。人。あ。う。が。親。及。の。本。音。や。く。新。島。の。あ。は。女。金。以。乃

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。

く。あ。の。あ。い。ふ。け。ん。あ。ら。せ。い。て。か。れ。る。く。お。け。さ。う。り。



こころのちがひ<sup>りさ</sup>。由<sup>よ</sup>縁<sup>えん</sup>縁<sup>えん</sup>。またまた<sup>また</sup>。<sup>また</sup>。

あはれ<sup>あはれ</sup>。あはれ<sup>あはれ</sup>。あはれ<sup>あはれ</sup>。あはれ<sup>あはれ</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。あまの<sup>あまの</sup>。

まぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

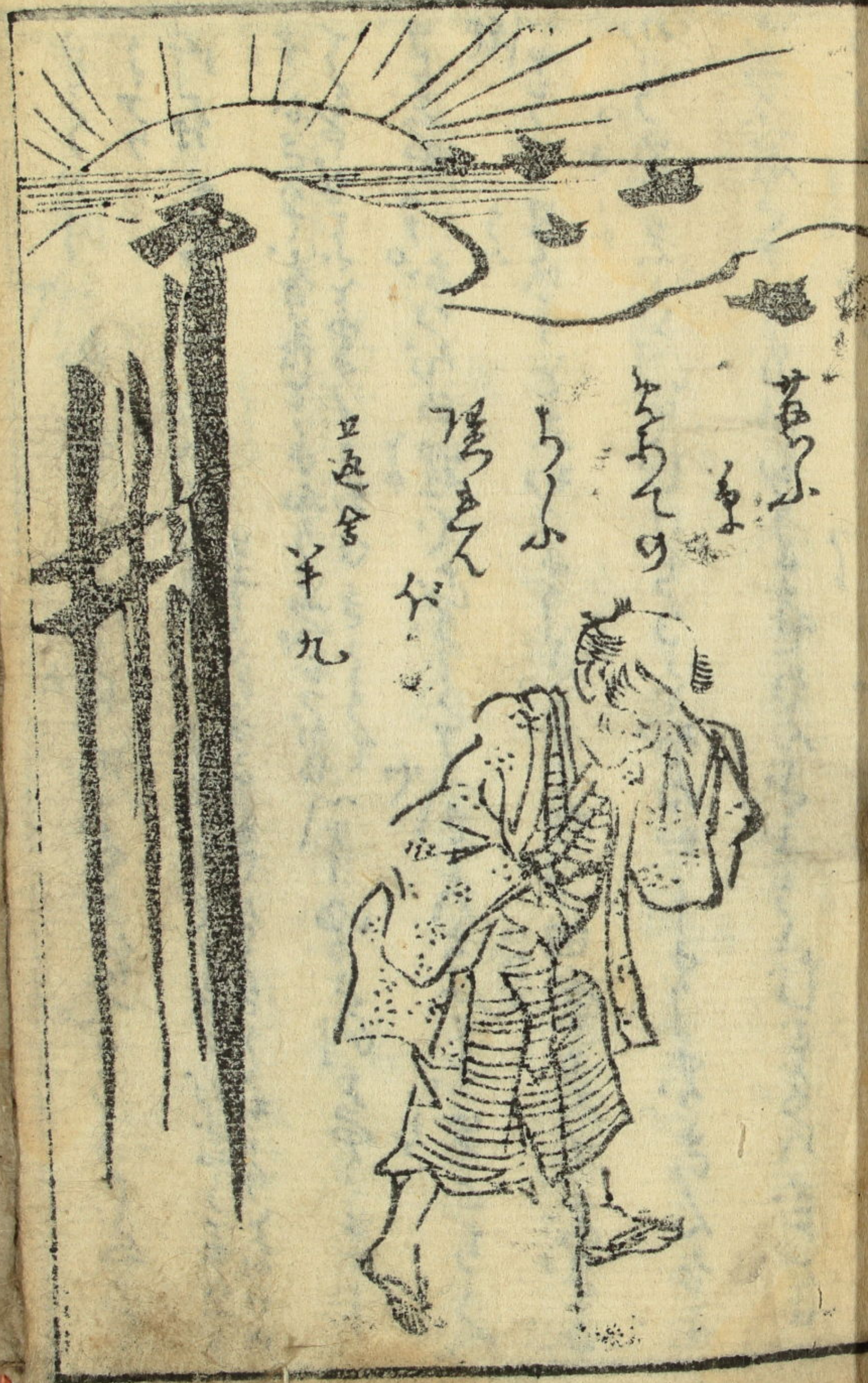
ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>

ちぢらう。いふ河がなほ、<sup>まぢらう</sup>なほうちよ。ト、あゝ、<sup>まぢらう</sup>







友らちのこゝろをなほとくらひけりしを  
あはれみのなるまゝしるしとて  
あはれみのなるまゝしるしとて  
あはれみのなるまゝしるしとて

かへき花の独歌

新波にのりあはれき花の独歌

かへき花の独歌

十一



